

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870101118		
法人名	特定非営利活動法人 福井福祉医療開発研究所		
事業所名	グループホーム レインボー21		
所在地	福井市高木中央3丁目1601番地		
自己評価作成日	平成30年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成 30 年 10 月 15 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は福井市北部にあり、近くには結婚式場・保育園・神社などがある新興住宅地に立地している。建物は鉄骨3階建てで外観はアパートのようだが中に入るとアットホームな雰囲気を利用者の皆さんにはご本人のペースに合わせのんびりと過ごしていただいています。介護度にとられない、その人にあったサービスの提供を心掛け、出来ることを奪わず自立支援を促し、その方の暮らしやすい生活の場の提供を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福井市北部に位置し、周りは静かで落ち着いたある新興住宅地である。また、事業所の斜め前には公園があり、天気の良い日は日向ぼっこが気軽にでき、季節の移り変わりを感じることができる。建物1階は小規模多機能事業所のデイサービス、2、3階が事業所となっており、利用者間の交流があり、誕生会や季節ごとのイベント等を通してさらに親睦を深め、利用者それぞれが日常生活を楽しめるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎屋中礼時(申し送り時)、理念を復唱し、職員間で意識の共有をしている。	申し送りの時に理念を唱和し、「ゆとり・大切・笑顔・思いやり・声かけ・気配り」を目標としている。家族には理念を契約更新時やケアカンファレンスの時に伝えている。	全職員に理念の意識は共有されているが、実践する上での個人目標は文章化されていない。一人ひとりの職員の意識向上のために文章化し、介護の振り返りができることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、草取り・ゴミ拾い・防災訓練など地域行事に参加している。	自治会へ加入し、町内会長には年1回挨拶に伺っている。地域のゴミ拾い、草取り、防災訓練に参加するとともに、施設内でのイベント等について町内会長に知らせ、地域住民が参加できるような働きかけを行っている。	利用者が地域住民とつながりをもちながら暮らし続けられるよう、今まで以上に地域との交流に事業所全体で取り組み、活動が広がることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、相談があったときはケアの方法をアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、そこで出た意見を議事録にまとめミーティング時に職員に周知している。取り組みや状況を報告し出席者と意見交換を行っている。	運営推進会議は2か月に1回、家族が参加しやすい土曜日に開催している。参加できない家族には議事録をその都度送っている。議事録ファイルを作成し、面会の家族や職員がいつでも閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアマネージャーを中心に日頃から連絡をとり、わからないことはすぐに担当者に聞くよう努めている。地域包括支援センター、市町村担当者に電話連絡を行っている。	日頃から市役所に電話や直接出向いて相談している。また、外部評価結果について管理者が市職員に説明している。地域包括支援センター職員とも連絡を取り、協力関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の意味を兼ねてインターフォンを鳴らしていただき外来者を把握する為に施錠している。利用者は施錠を外すことが可能である。	職員は職場内外の研修に積極的に参加している。また、マニュアルの見直しや更新を適宜行い、管理者も含めて拘束についての意識は高い。安全のため外のドアの施錠は行っているが、内カギは朝7時から夜の夕方まで解放されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月幹部会にて高齢者虐待マニュアルに基づいて勉強会と報告会を行っている。特に気づかないうちに言葉の暴力を使用していないかなど、その都度お互いに注意し合い話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度に関する知識を修得するために職員には権利擁護の資料を見て各自勉強してもらっている。又、研修にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重要事項説明書を読み上げ理解を得ている。不安点・疑問点はその都度説明を行っている。面会時にも疑問などにはその都度説明し納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加していただき意見交換を行っている。	意見箱が玄関に置かれている。職員と家族の関係は良好で、家族は直接電話や面会時にも必要に応じて意見を言い、出された意見に対し早期に対応が出来ている。その他、家族アンケートを年に1回行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、ミーティングを行い職員の意見・提案を聞いている。長きにわたり働けるよう状況に合わせた勤務内容や時間の見直し等、随時行っている。	毎月1回、施設内合同でミーティングやカンファレンスを行っている。職員は夜勤明けでも参加し、参加できないときは予め書面で意見を提出している。意見や提案の検討結果は理由も含めて記録し、職員に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とはコミュニケーションをとっており働きやすい環境を整えている。施設内勉強会では職員が講師役を務めその中から年間最優秀者を選出するなどしてモチベーションの向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修ではレクや感染症など勉強したいことを内容に取り上げ講師役も教わる側も良い勉強になっている。施設外の研修に機会があれば参加するように促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、グループホーム同士の情報交換や職員研修等に参加している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居時に本人の思いや要望を聞き職員間で情報の共有を行っている。馴染みの関係づくりに努め安心して生活していけるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が見学や申し込みに来た際、不安に思っていること困っていることを聞くように努めその都度話し合い安心出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、ご家族と話し合い状況に応じて必要なサービスを提供している。その方の状況によっては、他のサービスを勧めることがある。早急な対応が必要と感じる方には他施設への申し込みを勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人に合わせた活動を支援し、出来ることは職員と一緒にしていただいている。介護するという考えではなく、共に寄り添い生活リハビリを行いながら本人らしく生活出来るよう一緒に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には状態などを伝えている。状況の変化があった際は電話にて連絡をしている。ご家族の思いや不安・不満・希望についても充分聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方の面会、以前から利用していた美容室へ行くなど出来る限り関わりの継続を図っている。	以前から付き合いのある方の面会や馴染みの美容室の利用を支援している。手紙や年賀状などのやり取りも支援し、関係を継続できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりひとりの性格を理解し入居者同士の関係を把握している。2ユニット合同のレクリエーションを月1～2回開催している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や医療機関へ移られた後も相談員と連携しながら、ご家族・ご本人が困ることがないようにその後のサービス利用に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を伺ったり生活歴等を考慮し日々の関わりから気持ちを汲み取るよう努めている。ケアプランの実施と評価はモニタリングを基にし思いに沿っているかを確認している。	利用者一人ひとりの言動を把握して対応している。職員間で計画的に利用者の意向について話し合い、それらを基にモニタリング、ケア計画の作成を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や担当ケアマネジャー、施設、病院などからの情報収集に努めている。ご本人の生活歴や過去のことも聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間帯の記録を残し状況把握を行っている。ミーティング時、職員から話を聞き状況の把握を全職員で行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング、3か月ごとの評価を職員間でも行っている。家族の面会時にも意向を確認し、了承を得て介護計画を作成している。	月1回のモニタリング、3か月に1回の介護計画の見直し、立案を行っている。ケア会議は家族も参加して意向を確認し、介護計画に反映している。緊急時には、担当者、ケアマネと相談し、家族には電話で状態の報告と介護計画の変更を伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の様子を記録し気づいたことは細かく記録し送り時に情報を共有している。定期的に職員間ミーティングで話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員1人で判断せず管理者、ケアマネを含め全職員で相談し柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方と協力し安心した生活を提供できるように心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、通院は家族にお願いしているが家族の事情に合わせて施設で受診に行くこともある。訪問診療を利用されている方もいる。	利用者の希望するかかりつけ医に受診している。基本的に家族が同行しているが、都合が悪い時は職員が同行している。その際、書面がかかりつけ医に生活報告を行っている。最近では、協力医からの往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師を配置している。状態変化や身体観察で気づいたこと、異常時には報告し指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には基本情報を持参し、本人の情報を伝えている。面会に行き様子を確認したり看護師に状態を聞いたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約時に医療行為はできないこと予想されることや重度化したときのことなど今後の在り方についての話をしている。重度化した場合は老健施設や介護老人福祉施設など他施設への紹介を行っている。	入所の契約時に重度化、終末期について事業所の対応を説明し、利用者および家族の納得を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり勉強会も行っている。対応方法は都度話し合っている。勉強会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。消防署や地域の方の協力体制を得ている。夜間を想定した訓練も行っている。	地域の避難訓練へ参加するほか、事業所独自の災害訓練を行っている。その際は消防署の指導を受け、職員と利用者が一緒に訓練を行っている。水、非常食備品などを各階に備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩という気持ちで対応するよう心掛けている。個別性ケアを重視してその方のこだわりを尊重し対応している。	プライバシー、尊厳に関することは、管理者を中心に計画的に話し合っている。職員に不適切な発言があれば、管理者がその都度注意をしている。また、利用者のプライバシーに関することは他の利用者や家族の前では話さないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の日は決まっているが、拒否がある方については毎日誘いいつでも入浴できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食時間は決まっているが朝ゆっくり寝たい方は休んでいただき起きてから朝食を摂っていただいている。本人のペースで食べていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師に2ヶ月に1度来ていただき好みの髪型にしている。馴染みの理髪店に通っている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決められた献立はあるが誕生日には本人に食べたいものを聞きメニューに取り入れている。食器拭き、野菜の皮むきなど一緒に行っている。	利用者の希望に沿って外食やお寿司などを買うなど、変化のあるメニューになるよう計画を立てている。利用者の体調に合わせて、皮むきや後片付けを毎食時職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりに合った食事形態や水分量を健康チェック表に記入し職員が把握している。食事摂取量が少ない方には栄養補助食品、水分摂取量が少ない方には本人の好む飲み物を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し義歯のある方には夕食後に外していただき義歯洗浄剤に浸けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しその方の排泄パターンを把握できるようにしている。誘導が必要な方にはその方に合わせて誘導及び介助している。	日中は布パンツ、夜間は2～3人のみオムツをしている。排泄パターンの把握、トイレ誘導を積極的に行い、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日冷牛乳又は飲むヨーグルトとフルーツを摂っていただいている。一緒に廊下を歩くなどの運動も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴槽のお湯はひとりひとり入れ替えている。本人の希望する時間に入れるように支援している。1人1人のペースに合わせて入浴してもらっている。	週2回の入浴は、利用者のペースに合わせて、希望する時間帯や入浴時間などを聞き援助している。洗身時は、利用者自身が洗えるところは洗ってもらうよう促し、見守りを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室でのんびりと過ごしたい方には自室で過ごしていただき他の方と一緒に過ごしたい方にはフロアに出させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの薬剤情報は個人ファイルに保管し薬は個人の服薬ケースに保管している。服薬時は名前を確認し、服薬が終わるまで見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器吹きや衣類たたみ、洗濯物たたみなど負担にならない程度にその方の出来ることをお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力のもと、外出したり家に帰って過ごしたりしている。	天気の良い日は、斜め前の公園で日光浴を行っている。また外食に出かけたり、家族の協力を得て外出を行ったりしている。	利用者の気分転換やストレス解消、五感刺激等のため、さらに外出の機会が増えるような支援を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホームでは金銭は預かっていない。外食や買い物をしたときは請求書で家族に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方には職員が電話をかけて会話できるように支援している。自分の携帯を所持している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁には利用者の作品や行事に参加したときの写真を飾っている。又季節の展示物を貼るようにしている。	フロアの空間は、利用者の人数に対して丁度良い空間となっており、家庭的な雰囲気でも過ごしやすい場となっている。また、イベントの写真や利用者の作った作品が貼られ、温かい雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに横になりテレビを観たり、気の合う方と同じテーブルについて話したりしながら過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の方には馴染みのあるものを持ってきていただくよう話しており、部屋にテレビや家族の写真などを持ち込んでいただいている。	ベッド、タンスは施設据え置きの木目調の物で、暖かい雰囲気になるよう配慮している。掃除も行き届いており清潔感がある。また、利用者の馴染みの品が置かれており居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所などドアに大きく貼り紙をして自分で入れるようにしている。部屋がわからないときは付き添い表札を確認していただいている。		